

第4回 新しい日田の森林・林業・木材産業振興ビジョン策定 森林・林業部会

日時：平成26年11月28日（金）10：00～11：30

場所：日田市役所7階 中会議室

次第

1. 開会
2. 議題
 - (1) 素案について
3. 意見交換
4. その他
5. 閉会

事務局資料説明省略

部会長

まず、ビジョン案についてご意見をいただきたい。

部会員

分散している森林所有者の集約化が課題になっており、重点施策1－(3)では、森林組合等への売却との記載があるが、所有者から打診があった場合組合は購入できるのか。

部会長

ゼロではないが、購入のハードルは高いだろう。

部会員

集約化における肝ではあるが、誰が面倒を見るかは難しい。当社も林地の購入はするが、50年生以上の条件の良いところに限る。通常の場合で10年生の山の購入は難しい。それは、組合も同じだろう。また、広葉樹への誘導については、育林が難しい。誘導を目指すだけでは難しいだろう。植林ではなく、自然林を目指すというのはどうか。

部会員

災害に強い森林づくりと良く言われているが、「災害に強い」森林がどのような森林かまだ明確になっていない。災害に最も強い森林は自然林である。今は、スギやヒノキの人工林に変わってしまったので、強度の間伐をしながら、広葉樹に誘導していき元に戻していくと災害に強い森林になっていくというのが基本方針だと思う。しかし、短期間では無理だ。100～150年の期間が必要だ。それを短期間で回復させる手法が、宮脇先生が提唱する密植だと思う。それを阻害する因子として獣害が考えられる。シカは広葉樹が好きなので、防護対策が必要になり、災害に強い森林を作るのは難しい。洪水が発生する溪流沿いの森林は、伐採して自然に生えてくる木をみて、それを育てていくのが一番良いのではないか。それをビジョンに盛り込むのは困難なので、やはり記載の通り「災害に強い森林づくり」とせざるを得ないだろう。基本的には針広混交林にするための間伐をする形で、理想の山に近づけるしかない。日田は水と森が絡んだ行政目標となっている。水を守る森林づくりを考えると、源流の森は手を入れずに保全することが望ましい。森林トラストのような形で、源流の水源涵養の森を集約管理していくことが必要だろう。日田がある程度主導権を握りながら、筑後川流域全体で考えていく必要がある。そのようなことを推進するということをビジョンに盛り込んでも良いのではないか。

部会長

天然林化は、裏を返せば放置林にもつながる。良い・悪いという話しではないが、天然林化という言葉にすると、放置林とも捉えられかねない。施業方法がないので、誘導を目指すということになっているのではないか。

事務局

溪流防災帯については、策定委員会の意見でも、本来植えてはいけないところが人工林になっている事に問題があり、そこを変えていくためにも溪流から 20m くらいは、広葉樹に変えたり、強度間伐を実施したりすることが必要ではないかということが挙げられた。民有林でやろうとしても、効果の検証なども非常に難しいので、可能であれば市有林の活用が良いと考えている。県の施策では、環境林と経済林のゾーニングも進められていると聞く。そのような結果も踏まえながら、県の方針も踏まえて実施できればと考えている。

部会員

31 ページ以降の（1）森を守り・育てる～（3）森を知るについては、もう少し目立つような記載方法にしてはどうか。また、ローマ数字と混在しているので統一した方が良い。また、47 ページの取組方針である観光プログラムの開発においては、岡山県の真庭市をイメージしたような、林業を含めたまち全体の観光を、観光協会が取りまとめることもあって良いのではないか。広葉樹林化については「環境林」という括りの中での誘導になるので、人工的なものもあるし、いわゆる放置という方法もあるだろう。そのため、誘導という記載にしておけば問題ないのではないか。

部会員

30 ページの施策体系は、それ以降の目次を兼ねていると思うが、重点施策の項目と付き合わせた時に若干読みにくいと感じた。重点施策が基本方向と基本施策に該当している箇所があり、レベルが統一されていない。重点施策にはないが、施策体系に記載されているものの取り扱いはどう判断すれば良いのか。日田スギデザイン会議については、「森を活かす」のデザイン力向上に該当するのではないか。記載の場所はここで良いのか。林業労働力の担い手の施策を、「森を知る」に記載するのは少し違和感がある。森を守り育てるに記載した方が、位置づけや実現力として説得力があると思う。木材利活用アカデミーや日田スギデザイン会議の箇所で、素材生産や森林づくりの担い手育成もきちんと盛り込まれれば良いが。

部会員

今の意見の通り、整合性をとると見やすいと思う。53 ページの林業咸宜園はインパクトが強くて非常に良いと思うが、この咸宜園の役割はどこまでの範囲を想定しているのか。場合

によっては、観光などもこの中に含まれるのではないか。木材利活用アカデミーについては、既に具体的な構想が出来上がっていて、それを支援するという感じがする。どちらが、メインになるのか。咸宜園は世界遺産登録も目指しているので、非常にインパクトがあるので、具体的な内容があっても良いのではないか。

事務局

体系のご指摘について、ローマ数字との混在などは修正する。重点施策については、前回骨子案を提出した際、重点施策が30ページの基本方向、基本施策、取組方針の項目名を使っていることに対して改めるようご指摘をいただいた。そのため、方向性には変更はないが、項目名を修正した。施策の内容によってはレベルを合わせるのが難しいため、重点施策には、基本方向レベル、基本施策レベルのものが混在している。担い手の育成については、林業、木材産業などそれぞれに応じた担い手の育成が必要だということは承知している。森を守り・育てる、活かすのそれぞれに記載していくのか、あるいは今回のように一括りにして記載するのかについて、事務局としては「森」のことがわからないと人は育たないだろうという認識のもとで、このような体系とした。また、担い手育成の重点施策(3)－3、4については、木材部会でも記載がわかりづらいという意見が出た。骨子案の際、林業咸宜園をつくり、そこに担い手育成を集約させるというイメージを打ち出していた。ただし、具体的な施設や学校があるというものではなく、研修やセミナー各種支援を行う、いわば上位概念のようなものをイメージしていた。54ページの木材利活用アカデミーについては、民間組織の動きがあるので、行政として幅広く支援できるようにビジョンに記載した。日田スギデザイン会議については、ご指摘いただいたように、「森を活かす」のデザイン力向上の箇所に記載する方法もあったが、若手の幅広い日田市の担い手の育成に向けて、デザイン会議の中で横のつながりを作ってもらい、ミッションのような形で、地域の課題を見つけ、デザイン力、販売力と同時に「人材力」の向上につなげたいとの思いがあった。そのため、担い手の育成の中で整理させてもらった。木材産業部会での意見も踏まえ、重点施策(3)－3、4は1つにまとめることとした。

部会員

咸宜園構想が業界のやる気のある人達の情報を集めて、より新しいものを生み出して行こうという動きであるならば、クラスター化と限りなく近いイメージと思った。クラスターのイメージが良くわからないし、重点施策には挙がっていない。可能なら一緒の意味で使った方が、より个性的なビジョンとなるのではないか。それぞれの枠組みが漠然としているので、整理できれば良いと思う。

事務局

これまでの人材育成は、林業、木材産業、木育など、それぞれの該当箇所の中で分けた形で記載するのが一般的であったが、今回はネットワークや横のつながりを強く意識したので、個別分野での記載ではなく、人材育成を1つのカテゴリーとして記載した。そこに今回のビジョンの特徴があると考えている。重点施策が突き合わせしにくいという点に関しては、30ページの体系図の中で、重点施策を、森を育てる、活かす、知るの該当箇所別に整理して記載することで対応できるのではないかと思う。

部会長

36ページの集約化に関係するかもしれないが、日田市森林組合の監査において、小規模所有者の対策を早めに構築するようとの指摘を受けた。組合だけで解決できる話ではないので、県や市と相談をしながら考えたいと回答した。できれば、この「調査・研究」については急いで取り組む必要があると思った。アンケートの結果を見ても、売却や他への委託が多い。森林組合も原木市場も、現在の立木の状態を見て山を買うので、10～20年生は買わない。森林組合が購入しても良いが、固定資産税の負担が課題になる。広葉樹林化も同じ課題を抱える。生産収入がないにも関わらず、支出があるということだ。ただし、ビジョンへの記載は難しいだろう。

部会員

林地の管理ができないので森林組合に委託するという流れになると思うが、農業では、生産委託など所有と経営の分離の方向で動いている。林業もそのような形で、経営は他に任せるといふ流れになれば、森林の管理はしやすくなるのではないか。その働きかけが重要だろう。

部会員

アンケートの利用法としては、ビジョンの資料として付けるのか。

事務局

結果については、コメントを入れてビジョンの資料として活用する。

事務局

また、各施策を講じる際のバックデータとして、囲み文などで示していきたい。

部会員

アンケートを見ると、施業を実施している人は収入を得ているということが分かる。人目に触れる資料になるのであれば、例えば、分析を工夫して、施業をすればそれが収入に反映されるなどというデータとして示すことができれば良いのではないかと。

部会員

これは振興ビジョンなので、具体的な数値目標は入らないのか。ビジョンをまず策定して、その次に事業計画があるという認識でよいのか。また、ビジョンを大々的に打ち出す計画はあるのか。例えば「林業咸宜園構想！！」など。もし、見せるのであれば、わかりやすいキーワードを示した方が良くもしいかな。

事務局

目標数値については、他にも意見をいただいているが、本ビジョンにおいては、あくまでも方向性ということで、具体的な数値や年次を記載することは考えていない。ビジョンを踏まえた具体的な施策を考える段階で明確にする。また、ビジョン推進委員会を立ち上げる予定なので、その中で検討していきたい。今後、ビジョンに記載のないことを事業として実施するというのは難しくなるので、ある程度幅広く記載した方が良くもしいかな。

事務局

現段階では現状と課題を整理し、それを踏まえた施策をつくり、新年度予算などに盛り込んでいきたいと考えている。

部会長

一般的なビジョンの形式は良くわからないが、表紙にサブタイトルなどは付かないのか。「水郷日田」なので、山だけでなく水との関係を打ち出せるようなものがあると良いなど思っている。それを表に出せれば良いと思ったので、検討いただきたい。

事務局

スローガンやサブタイトルを入れるものなど、ビジョンには様々な形がある。

事務局

最終的なビジョンは、市民に親しみやすいデザインを心がけたいと思っている。今後は、部会のご意見を踏まえて修正を行う。さらに12月8日に第3回委員会で意見を踏まえて修正を行い、1月に外部向けの案としてパブリックコメントを通して市民からの意見を聴取することになっている。その意見を踏まえた修正を行い、再度部会を開催して最終的な意見をお伺いしたい。そこで最終案を作り、策定委員会を経て3月の完成に持って行きたい。部

会員の皆様から何か他に意見などがあれば、パブリックコメント期間に随時受け付けたい。
また、パブリックコメントに出す資料については、事前に皆様にお送りする。

部会長

以上を持って、部会を終了する。ありがとうございました。